

## 第7回苫小牧市史編さん審議会

日 時 令和6年8月13日（火）

午後3時00分～午後3時50分

会 場 苫小牧市役所第2庁舎2階北側会議室

出席委員 蓑島会長、明村委員、今井委員、木村委員、斎野委員、作田委員、山田委員（7名）

事務局 教育部 斎藤次長、鍛冶事務局長、河本主幹（生涯学習課長）、藤原主幹（美術博物館長）

○事務局 本日は、お忙しい中、また天気の悪い中お集まりいただきありがとうございます。ございます。

ただ今より第7回苫小牧市史編さん審議会を開催いたします。私は、本日司会進行を担当いたします、藤原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に先立ち、委員に変更がございましたので、紹介させていただきます。昨年9月に佐藤一夫委員が死去されました。ご冥福をお祈りいたします。新たな委員として本年4月1日付けで、斎野伊知郎委員に委嘱をさせていただきました。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、委員10名中7名の出席をいただいております。なお、都合により欠席されている委員は、佐々木委員、森委員、山本委員の3名でございます。

引き続き、斎藤教育部次長よりご挨拶を申し上げます。

○次長 本日はお忙しい中、急なお声がけにもかかわらず、苫小牧市史編さん審議会にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。また、委員の皆様には、日頃から本市の社会教育振興のためにご理解とご支援をいただいておりますことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

本日の会議では、新苫小牧市史の編集方法等の変更について、事務局からご説明させていただきますが、新しい苫小牧市史を刊行することによって、これまでの本市の発展の過程を改めて確認することは、今後のまちづくりにつなげるためにも大変重要なことと考えております。皆様には、市史の刊行に向けて、お力添えをいただければ幸いです。

委員の皆様におかれましては、専門家としての視点や様々な知見や経験

に基づいたご意見をいただけますようお願い申し上げ、簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、これより審議会の議事に入りますが、令和5年3月以来の審議会となります。また、今回新たに委員にご就任された方もいらっしゃいますので、各委員の皆様から、あらためて自己紹介をお願いしたいと思います。

恐れ入りますが、明村委員から順にお願いいたします。

<各委員自己紹介>

○事務局

ありがとうございました。続きまして、教育委員会の職員にも異動がございましたので、あらためて紹介させていただきます。

<職員自己紹介>

○事務局

なお、本日は出席しておりませんが、美術博物館の江崎主査、岩波主任学芸員が4月1日付けで兼務発令を受けておりますので、ご報告させていただきます。

○事務局

それでは、続きまして、議題に入る前に、苫小牧市史編さん審議会条例第6条第3項により審議会の会議の議長は、会長が行うこととなっておりますので葦島会長よりお願いいたします。

○議長

それでは、会議次第に従い、会議を進めさせていただきます。

それでは、2議事の(1)新市史の編集方法の変更について事務局から説明をお願いします。

○事務局

1 新市史の編集方法の変更についてですが、平成29年度から新たな市史の発刊に向けて取り組みを開始し、現在は審議会から答申いただいた編集方針等に基づき令和10年度発刊に向けて、資料収集、原稿執筆を進めている状況にあります。

これまで市史編集の中心業務といえる原稿執筆については、市民の協力や職員により原稿を執筆することで、苫小牧に住むものが文章を書く

ことにより、地元の息吹や空気感を持つ記述となり、郷土の雰囲気や歴史を身近に感じることができる内容となるとの考えに基づき市民及び職員で執筆を進めてきたという経緯となっております。

しかし、誰にでも読みやすく親しみやすい原稿作成は出版業や執筆業のような専門業務の要素が強いということがあります。合わせて、現在の状況においては、職員の個人能力に大きく左右されるということもあり、進捗率の大幅な向上にはつながらず、令和 10 年度の業務完了の確実性が担保されない状況となっております。

そのため、編集方法の変更を図り、専門事業者の力を借り、より読みやすく親しみやすい内容の市史とするとともに、進捗率の向上を図りたいと考えております。

具体的には、令和 8 年度より導入を予定しておりました編集・校正、印刷の民間委託導入を前倒しし、令和 7 年度より原稿執筆、編集・校正、印刷の民間委託導入に編集方法を変更したいと考えております。

民間委託導入にかかるイメージとしては、中段の表に示している通りです。令和 8 年度からの委託に原稿執筆を加え 1 年前倒しするということになります。

なお、これまで目指しておりました、地元の息吹や空気感を持つ記述とするためには、専門事業者との詳細な打ち合わせ及び原稿校正において対応可能であり、この点に十分留意して進めてまいりたいと考えております。

○議長

ありがとうございました。

ただいま事務局から説明のありました、新市史の編集方法の変更について何かご質問やご意見はございますか。

○委員

民間委託でという説明でしたが、以前の資料で、登別市が一部民間委託。恵庭市が民間委託という説明を受けていました。苫小牧市はどのように考えていますか。

○事務局

これまで、執筆者を選定することと職員が執筆することを平行して行ってきましたが、なかなか執筆を受けてくれる方がいないという実態がございます。苫小牧市はまとめて全部委託ということで進めていこうと考えているところです。

○委員

分かりました。

○議長

よろしいでしょうか。それでは、(2)目次大綱の見直しについて事務局から説明をお願いします。

○事務局

2目次大綱の見直しについてですが、これまで新市史は通史で作成するというにしておりましたが、現代史においては、特に新たに記述が必要な平成13年度以降については、市域においては様々な事象が見られ、通史のままでは捕捉できない範囲が発生するということがあります。また、他市の市史編纂事務局や編纂実績のある事業者などから、通史の市史では一般的な市史としては漏れる事象が多く発生すると考えられるとの指摘をいただいております。

また、今回、平成13年度以降の現代における出来事について追加していくこととなりますが、追加する部分にあった方法で行いたいと考えております。

そのため、目次大綱を資料の図のとおり見直しを図り、取り組みを進めてまいりたいと考えております。具体的には、近代からは部門史とし、8分野に分けて記述するということで考えております。

今回考えられる捕捉できない範囲としましては、資料1の各分野の主な掲載候補一覧をごらんいただきたいのですが、こちらは現段階で抽出している事象の一部になりますが、例えば行政の分野では、平成12年の地方分権一括法の施行以降、行政領域が著しく拡大していることがあります。行政としても様々な取組を行っており、それにより市域においても様々な事象が発生していることがあります。

さらに、市の課題としても、新千歳空港の滑走路延長問題や第2ターミナルの建設問題、発着枠の拡大、在日米軍の訓練移転問題などの重要な案件もあります。また、CCSの取組や統合型リゾート（IR）の取組などもあります。また、中央インターチェンジの開通、二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指すゼロカーボンシティの宣言、駅前プラザエガオの関係など、市において重要な事項があると考えております。港湾に関しても、国際コンテナターミナルの西港から東港へ移転していることや西港区汐見地区屋根付岸壁の整備など大きな案件が多くあります。産業経済においても、イトーヨーカドーの閉店、丸井今井の閉店、ゼウスシティの開業閉鎖、ふれんどビルの建設など、駅前の状況が大きく変遷していることや日本製紙勇払事業所の洋紙生産事業からの撤退など工業の分野でも大きな動きがみられています。学校教育の分野においても、ゆとり教育の推進による学校完全週休2日制の実施やGIGAスクール構想により、児童生徒一人ひとりに対しタブレットが配布されるなど子どもたちの学校教育の環境が大きく

変わっているということもあります。これだけではありませんが、これらの市域において見られた事象について可能な限り網羅し、新市史に取り込んでいくために、目次大綱の見直しが必須であると考えております。

詳細な目次大綱については、今後、詳細資料の収集状況及び原稿執筆を担当していただく事業者との協議の中で掲載案を作成していくこととなるため、審議会委員の皆様には、ある程度の案が出来次第、ご審議していただくことを考えております。

また、これまでの編集において目次大綱として掲げてきた項目については、資料2として添付しておりますが、今回追加する部分が第9章の低成長時代というところに該当する部分になります。資料1と資料2を比較していただくと、かなり事象が漏れているということ把握できると思います。これまでの審議の経過というのがありますので、資料2に掲げている項目については、可能な限り各分野に取り込んでいきたいと考えております。

○議長

ありがとうございました。

ただいま事務局から説明のありました目次大綱の見直しについて何かご質問やご意見はございますか。

○委員

他所から来た者から見ると、苫小牧は、昔からスケートボードが盛んで、30年以上前から思っていたことです。後、サーフィンも盛んだと思う。そういう横文字スポーツは取り上げないのでしょうか。他の街の出身から見ると、なぜこの街にはこんなに上手な選手がたくさん居るんだろうと昔から思っていたので、ぜひ苫小牧の特色として取り上げてほしいと思います。

○事務局

この資料については、平成13年から令和2年までのデータの中から拾っています。オリンピックの関係では、前回銀メダルを取った開心那（ひらきこな）選手の関係も十分把握しています。ご意見として十分考えていきます。

○委員

GIGAスクールや学校でタブレットというのは、苫小牧以外の学校でもやっていることで、もっと苫小牧独自の教育で取り組んでいることを入れてもらえると、読む者としては面白いと思います。

○事務局

考え方の基本として、主軸は行政にあると思っています。国や北海道の動きによって、どのように市民が思っていたのかなどが市史に該当してく

る部分ではないのかなと思っています。事象が起きて時間が経ってから歴史が固まってくるという部分はあると思うので、そこは歴史かと言われると微妙な部分ではあると思います。

○委員            業者に委託した場合、業者が専門家に委託するのは。それとも、業者が自分たちで執筆するんですか。

○事務局            業者の方で、専門家を選定していただいて、書くという形になります。

○委員            苫小牧には王子製紙があって野球部やスケートのチームがありました。スポーツについては、王子製紙が先導してきました。スポーツについては、きっと道内屈指の都市だと思います。ですから、オリンピックでメダルを取るような選手が出てくるというのも、そういう下地があって、苫小牧全体がスポーツの盛んな街になったと思います。

○委員            業者が書いた市史はあまり面白くない。ぜひ面白い市史になるといいなと思います。

○委員            業者というよりは、誰か詳しい人が書くんだと思います。

○委員            読みやすい市史というところでいくと、色々と社史であったり、勇払の郷土史に携わってきましたが、なかなか文章にするとまずいのかなと思う裏話というか史実に基づいてはいるんですけども、公表していいのかなという分からない部分、個人の氏名や人柄を編さんされる資料に載せると魅力が出てくると思います。ただ、難しい問題があります。遺族や関係者が、こんなことさらさないでくださいとか、その承諾まで含めると非常に難しい部分があります。行政ではどうしていくのか聞いてみたいと思います。当時携わった社史では、工場のトップがそういうことを拾って書いてくれということで、書き入れたところ他の社史とは異なる物語的な 50 年史を作ったりしてきたんですよ。読んでみると、小説のように読めるので、非常に多くの人が共感してくれます。業者に委託するにしても組み入れてほしいなと思います。スポーツについては、スポーツ都市宣言が全国で最初だったと思います。苫小牧が、野球やアイスホッケーが盛んだったということも含めて、スケートに乗っているということがあったから、スケートボードにも意外と子ども方が興味を持つということがあるのかなと思いました。過去も含めて名選手がいるので、記録に残るようにしてもら

えればと思います。若い人が見ても、そういう選手を目指したいとか、どういう取組をしていたのかが、史実だけではなく、これからにつながるのかなと思いますので、そういうことも組み入れてもらえたらと思います。よろしくお願いします。

○委員           道立図書館に全道の市町村の自治体史が並んでいるんですけども、全部読んだわけではないが目を通しました。その中で、座談会を入れると面白いと思います。ある時期、時代を体験した人達、市民の座談会が入っていると非常に面白いし、のちの時代に読み返しても、苫小牧の歴史としても記録に残るものですし、いいと思います。

○議長           今、具体的な提案をいくつもいただきましたけれども、今、事務局から答えられる範囲で、何かあればお願いします。

○事務局           今、お話いただいた裏話や小説のお話もされていましたが、確かに私も見ていて思います。入っているのと入っていないのでは違うと思っているところです。ただ、事実を事実としてすべて書いてしまうのがいいかという部分もあります。基本的には、裏のとれないものは、裏話であってもご本人の了承が得られないとか、ご家族の了承が得られないものは載せられないと考えています。そして、原稿を執筆するにあたって、業者の作る市史は面白くないのではないかというお話もありました。これについては、今回業者に委託する期間が短いということもありまして、こちらからどんなことを書いてほしいか、ある程度指示をだすということを考えています。通常ですと事業者に委託すると5年から7年程度の期間が掛かるんですけども、それを4年間でということなんで、書いてもらうことと資料を提供する形で進めていこうと思っています。その後、原稿の構成などもありますので、その辺で意見を言っていきたいなと考えています。

○議長           私から1点よろしいでしょうか。形式的なことなんですけれども、新しい目次大綱の趣旨はよく分かるんですが、通史と部門史の関係で、今提示してもらっている物だと通史が近世幕末までで終わって、その後は部門史という考え方になっておりますけれども、これは、近現代は行政を中心とした部門史ということで、そこは通史で作らないということでしょうか。

○事務局           そこはですね、現段階のプランでは近世までを通史としているんですが、事業者からは、通史は通史で、先史から現代まで1本でずっと続けて、部

門史は近代から作るというやり方もあると思いますという話もされています。そうなりますと、近代から現在までの中から通史に持っていくものを抽出する作業が発生するということがあるので、今、現段階で資料1で令和2年度までで、全部ではないですけれども、これだけのボリュームがある中で、資料の集まる状況や集まっている状況を見て、記載可能かどうかというところを更に突き詰めていく作業が発生すると思っています。その中から通史に持っていっていった方がいいかなという資料が出てくるかもしれないので、そのときには、先史から現代まで1本の通史を作って、近代から部門史という形で作るということも考えられます。

○議長           もし通史と部門史が重なる時代ができると、その分手間が増えてしまいますけれども、通史が先史から現代まで一貫してあることのメリットもあると思いますので、引き続きご検討いただければと思います。

○委員           今、ご指摘いただいた問題なんですけれども、通史が近世幕末までということであれば、基本的にアイヌ史になるのではないかなと思うんですけれども、今後未来の苫小牧市民は、街の入植以降を郷土と思うのではないかなと思います。そうしますと、和人の入植以降の郷土史が欠落してしまうという形になるのではないかなと思うんですね。産業史の方に移ってしまうというような問題があるのではないかなと思いますがいかがでしょうか。

○議長           私からよろしいでしょうか。近現代のアイヌ民族の歴史については、恵庭市史ですと、部門史の中に現代のアイヌ民族の歴史を立てていたと思います。そして、今、編さんしている北海道史では、考え方が分かれていて部門史として一つのまとまりにするのか、全体の歴史の中で、色々なことがあったことを描いていくのか、その辺のやり方は二通りあると思います。今回ご提示いただいているアイデアですと、部門史に現代のアイヌ民族史を立てている訳ではないので、独立してアイヌ民族史を立てるのではなくて、色々な歴史の中に項目としていれていくという考え方かなと思いました。事務局の皆さんはいかがでしょう。

○事務局           そのとおりです。

○議長           他にご質問やご意見はありますか。よろしいでしょうか。それでは、色々なご提案をいただきましたので、事務局の方で引き続きご検討いただければと思います。それでは、(3)新市史の構成及び体裁の見直しに

ついて事務局から説明をお願いします。

○事務局            3新市史の構成及び体裁の見直しについてですが、これまで新市史は通史で作成し、1,200 ページ、資料編、年表の発刊を行うという3冊の発刊を予定しておりましたが、編集方法及び目次大綱の見直しを図り、今後の取組を進めるにあたり、発刊するサイズ、冊数などについても見直しを図りたいと考えております。

新たな市史については、全2冊とし、1冊目は「通史、資料、年表」とし、2冊目は「部門史」としたいと考えております。1冊目及び2冊目ともに各1,000 ページ程度とし、あまり学術的ではなく親しまれ、手に取って開いてみるなど手軽に扱えることに主眼を置き、このサイズにしたいと考えております。表をご覧いただきたいと思いますが、今後の計画としては、発刊冊数は全2冊、発刊部数は各500部、発刊サイズはB5版、縦横書きについては今後決定することとしたいと思っております。

次に市史のタイトルですが、これまで、新苫小牧市史としておりましたが、これまでの歴史、既刊市史該当部分については、大きな変更点について見つかっていないこともありますことから、「新」というのではなく、「新修」が適切ではないかと考えております。そのため、新修苫小牧市史としたいと考えておりますが、こちらについては発刊までに審議会で改めて審議していただきたいと考えております。

○議長            ありがとうございます。

ただいま事務局から説明のありました、新市史の構成及び体裁の見直しについて何かご質問やご意見はございますか。

○事務局            先ほどお話にも出ていた恵庭市史が全2冊で出ています。こちらが部門史で、こちらが少し薄いんですが通史となっています。部門史の一番最後にアイヌ関係の記述がまとまっています。

#### <恵庭市史閲覧>

○委員            業者が書いたとしても市史の編さんに使った資料というのは、図書館とかで保管するんですか。

○事務局            基本的には、こちらで資料を集めて、業者に集めてもらう部分があるかもしれませんが、記載につかう資料は、最終的に図書館とかで保管するこ

とになると思います。

○議長 恵庭の事例もご覧いただきながら、ご意見、ご質問があれば出していただきたいと思います。

○委員 今の苫小牧市史より大きいのかな。

○事務局 今の市史はA5版で、更に2,000ページあるので、手に持ってというには重たいです。コピーを取るのも苦労すると思います。

○委員 横書きの市史はあるんですか。

○事務局 あります。

○委員 賛否両論あると思うけど、横書きの方が読みやすい。恵庭市史は字を大きくして読みやすくはしているけど、横書きがいいなと私は思います。

○委員 私は縦書きの方がいいと思います。ただ、表とかは横書きの方が見やすいですね。なので、縦横を組み入れてもらえると嬉しく思います。

○議長 1,000ページ、1,000ページでも見やすくイラストとか図版を入れたりすると意外に書くところは、そんなにとれないかもしれませんね。

○事務局 大体、20パーセントくらいはなくなると言われています。

○委員 先ほどアイヌの話もありましたが、今、開基という言葉は使わなくなりましたよね。和人が来てから始まったのが開基ですから、その前にアイヌの人たちが住んでいたわけですから。やはりアイヌの人たちの歴史もあるわけですから、そしてここは、白老と平取の間にあって、アイヌの人たちもいっぱい住んでいたと思いますので、アイヌの人たちのまちづくりに果たした役割というの、きちんと位置付けるようなやり方が必要ではないかなと思いますね。

○委員 記録に残っているものがあれば一番いいんだけどね。

○委員 安立寺のところは元々、苫小牧のお墓があった場所なんですよ。それ

が大正10年のコイノボリ大火の時に高丘に移したわけですから。あそこにとくさん屈葬で埋まっていたアイヌの人たちの骨があったんですよ。だから苫小牧周辺に住んでいたアイヌの人たちがいた訳ですから、記録に残っていないから書けないんでしょうけれども。

○委員 苫小牧にもコタンはあったと思うんですけども、それが記録として残っていないんですよ。

○委員 勇払に松浦武四郎が来たり、八王子千人同心が来た時に、そこで働いていた、働かされていたわけですから、その歴史はきちんと残すべきだと思います。

○議長 色々なお話はありましたけれども、構成や体裁についてのご質問やご意見はありますでしょうか。これについては、まだ、検討の機会はあるということでしょうか。

○事務局 はい。

○議長 よろしいでしょうか。それでは、(4)今後の審議会の予定について事務局から説明をお願いします。

○事務局 4 今後の審議会の予定についてですが、目次大綱及び記載内容の概要に対する審議、進捗状況の確認を令和7年度以降に行いたいと考えております。さらに、令和8年度以降については、各分野の具体的な記載項目及び記載内容に対する審議をお願いしたいと考えております。令和10年度以降につきましては、配布先や販売金額の検討などの審議をお願いしたいと考えております。

○議長 ありがとうございます。  
ただいま事務局から今後の審議会の予定について、ご説明いただきましたけれども、何かご質問やご意見はございますか。

○議長 よろしいでしょうか。  
それでは、「(1)新市史の編集方法の変更について」から「(4)今後の審議会の予定について」まで、原案どおり決定ということでよろしいでしょうか。

<各委員異議なし>

○議長           ありがとうございました。  
それでは、3その他について、事務局から何かありますか。

○事務局           それでは、事務局の方から、今後のスケジュールについてご説明させていただきたいと思います。本日の審議会での決定を受け、今月開催される教育委員会議でも、本日ご審議いただいた点について、ご説明させていただきます。その後、次に開催される市議会におきまして、所管の委員会に報告させていただこうと考えております。

○議長           事務局から、今後のスケジュールについてのお話がありましたが、何かご質問等ございますか。

<質問等なし>

○議長           よろしいですか。それでは、本日の議事については、これで終了させていただきます。皆様、ご協力ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しいたします。

○事務局           蓑島会長、どうもありがとうございました。  
委員の皆様、ご多忙の中お時間をいただきまして、ありがとうございました。これをもちまして、苫小牧市史編さん審議会を終了させていただきます。本日はご出席いただきまして、誠にありがとうございました。